

西暦 2024 年 10 月 24 日

大阪医科薬科大学病院にて診療を受けている、受けたことのある方、ご家族の方、ご親戚等の方へ

当院では、下記の研究を実施しております。この研究は、通常の診療または過去に実施した研究で得られた情報（以下、「臨床情報」という。）を用いて行います。

この掲示によるお知らせの後、臨床情報の使用を許可しない旨の、ご連絡がない場合においては、研究へのご理解をいただいたものとして実施します。

なお、個人が特定できる情報は研究には利用しません。また、研究データ上にも残りませんので、研究の実施により、あなた、またはあなたのご家族・ご親族等の個人情報が流出することはないと考えております。

また、研究の成果を公表するときにおいても個人情報を提示することはありません。

皆様方におかれましては、研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、問い合わせ先まで、ご連絡ください。

① 研究課題名	網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する抗血管内皮増殖因子阻害薬の治療効果に緑内障が与える影響
② 倫理審査委員会承認番号	2024-182
③ 研究期間	実施許可日（2024年11月28日）から2027年3月31日まで
④ 研究の目的	最近の研究により、抗血管内皮増殖因子阻害薬が網膜静脈分枝閉塞症に併発する黄斑浮腫に有効であることが分かってきました。しかし、緑内障を併発している場合には薬剤の効果が弱い可能性があります。しかしなぜこのようになるのかについては、未だ明らかになっていません。そこで私たちは本疾患患者様のカルテに記載されている眼科検査結果を分析することにより、本当に緑内障を合併すると薬剤効果が低くなるのかを明らかにしたいと考えています。

	この研究により、緑内障合併症例での本薬剤の効果が弱いことが明らかになれば、本症例に緑内障が合併した場合の再投与スケジュールの確立に役立つのではないかと考えています。
⑤ この研究の対象となる方	2019年1月1日から2023年12月31日までに本院に来院し網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫の治療を受けた方
⑥ 研究の方法	この研究では、網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫を患っている方で抗血管内皮増殖因子阻害薬硝子体注射という治療を受けた方200名を対象に、治療した当時の臨床情報を用いて、後ろ向き調査を実施します。
⑦ 利用する情報	診療記録（性別、年齢、加療開始前・1, 3, 6か月時点での最高矯正視力、網膜厚、眼圧、薬剤再投与までの期間、視野検査結果、薬剤種類、総投与回数）等
⑧ 他機関への臨床情報の提供	本研究の実施にあたり、研究で利用する情報から個人を特定できる情報を削除した状態で山形大学に提供されます
⑨ 臨床情報の管理責任者	管理責任者氏名：喜田 照代
⑩ 臨床情報を利用する者	研究責任者氏名：喜田 照代
⑪ 臨床情報の利用停止について	いつでも、この研究にあなた自身の臨床情報を使用しないよう求めることができます。臨床情報の使用を認めなかったとしても、あなたに不利益が生じることはありません。申し出をされる場合は本人又は代理人の方より、下記の連絡先までお問い合わせください。 ただし、使用停止を求めた時点で、研究結果が論文などで公開されていた場合には、完全に臨床情報の使用を停止できないことがあります。
⑪問い合わせ先	大阪医科薬科大学 眼科学 〒569-8686 大阪府高槻市大学町 2-7 TEL：072-683-1221 担当者氏名：喜田 照代

以上